

(様式第2号)

## 意見交換会実施報告書

都城市議会議員 様

令和 5年 2月 8日

都城市議会「意見交換の場」に関する要項3(8)イの規定により、次のとおり報告します。

開催日時	令和 5年 1月 25日(水) 15時 30分 ~ 16時 30分					
開催場所	宮崎県立都城西高等学校 視聴覚室					
出席議員	長友潤治 畑中ゆう子、中村千佐江、神脇清照、羽田野徳寿、綿屋善明 広瀬功三、山内いっとく、黒木優一、森りえ、別府英樹、坂元唱子、成合円美佳 赤塚隆志、筒井紀夫、榎木智幸、中田悟、川内賢幸、楠見千穂子、佐藤紀子 岩元弘樹、音堅良一、小玉忠宏、山内和憲					
役割分担	全体 統括者	中村 千佐江	全体 司会者	指導教諭 外山 真樹氏	全体 記録者	綿屋 善明
参加人数	24名					
団体名	宮崎県立都城西高等学校(第2学年13名)					
テーマ	① 「都城を活性化させよう」 ② 「災害の被害を最小限に」 ③ 「空き家を利用して高齢者が安心して暮らせる町作り」 ④ 「お年寄りが住みやすい町作り」					
意見交換の概要 (主な意見・質問・要望 等及び答弁)	<b>①「都城を活性化させよう」(産業経済委員会)</b> (生徒) ・これまで、私たちは子どものいる世帯の方に住んでもらいたいと考えてきた。そのことについて、メンター企業の方にお話したところ、「商店街に店が増えただけでは家族連れの世帯が住まないのではないか。商店街の活性化も方法のひとつだが、子どもの支援などに目を向けてみては」とのアドバイスをいただいた。そこで、議員の皆様には、商店街の活性化だけでなく、都城市の少子化対策についても伺いたい。  <b>【議員】</b> ・子育て支援策として、医療費の補助(小・中学生の入院費無料、通院費200円)、放課後児童クラブの推進などを行っている。  ・今回のテーマを考える上で、「都城市民意識調査」などの統計調査を使ってみてはどうか。  ・商店街の空き店舗を実際に見て歩くことも有効だ。その他、いろいろな都市の街、テーマパーク、大分県にある昭和の街などを参考にしながら、「自分たちの街をこうしたい」という目標を立てることもよいのではないか。良いところをマネすることも大切だ。					

## ② 「災害の被害を最小限に」(総務委員会)

(生徒)

・災害時にスマートフォンの防災アプリを使って、高齢者のより早い避難に貢献できればよいと考えてきた。しかし、高齢者にとって、スマートフォンは操作が難しく、今さら買っても、といった気持から敬遠されがちと感じる。スマートフォンを持っていない方たちにも同じような避難情報を提供したい。その手段としてポスターを使って避難を促すことを考えている。しかし、見てもらえないのでは、という不安もある。どういったものを載せれば目を向けてもらえるのか。アイデアを伺いたい。

### 【議員】

・チラシやポスターに、「〇〇の時はテレビをつけてください」という記載をしてはどうか。また、NTTの「災害時安否確認サービス」を利用し地震など災害により電話が不通になった場合に備えておくことも有効だ。大切なことは、おじいちゃんやおばあちゃんの立場に立って、「スマホがなかったらどうする？」など、想像力を巡らせることではないか。

・地震などの災害が起きた際、「〇〇に連絡する」「連絡が取れなかったら〇〇に行く」など、ポスターという形で目に見える場所に掲示してあると安心だ、と感じた。

・孫のいる身としては、「孫の笑顔が見られなくなる」というフレーズを見聞くとすると、胸が打たれる。「孫の笑顔」というフレーズをポスターの中に入れてあげたら、お孫さんのいらっしゃる方は目を向けてくれるのではないか。

・いざという時のために、地域で、また親戚同士でご高齢の方と、日頃からコミュニケーションをとっておくことが重要だ。

・避難の際、住まいの周辺の環境によって避難行動が変わる。高台の方は地震に、一方、川沿いの方は浸水被害に備えて避難行動をとる。そうしたことも考慮に入れてポスター作成を行ってはどうか。屋内であればトイレ、屋外であればごみ収集所など、人の目に留まりやすい場所に掲示することも重要だ。

(生徒)

・定点カメラで河川や屋外の状況を撮影し、市のホームページで放映してほしい。自宅近くの状況を目で見て、避難の準備をするかどうか、判断の基準にもなる。

## ③ 「空き家を利用して高齢者が安心して暮らせる町作り」(建設委員会)

### 【議員】

・空き家の再利用について、どのようなイメージをもって考えているのか？

(生徒)

・若者と高齢者が楽しめる場所をつくれなかと考えている。

### 【議員】

・高齢者や若者が空き家を利用している地域がどこにあるのかを調べてみては？ふれあいの場は、とても大事だと思う。

・市内にも、認知症カフェ（オレンジカフェ）がある。庄内町に都城高専の学生が取り組んでいる「ミートン」という、小さな子からお年寄りまでが集

	<p>えるサロンがある。見学してみてもいいですか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者が集うためには、コミュニティバス等の交通手段も考えないといけないので、カフェ等をどこにつくるかも大事になってくる。まずは、市内に空き家がどれくらいあるのか、調べてみるにはどうですか？</li> </ul> <p><b>④「お年寄りが住みやすい町作り」(文教厚生委員会)</b></p> <p>〈生徒〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者との交流の場をもてたとして、どんなふうに交流したらよいか？</li> </ul> <p><b>【議員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の提案する折り紙が好きな高齢者もいるかもしれないが、若者が思っているよりも高齢者は元気であるため、体を動かすことが好きな場合もある。実際に交流して、自分たちと一緒に何がしてみたいのか聞いてみるのもひとつである。</li> <li>・自治公民館の役員に相談して、集まってもらおうようアポを取ることに加え、周知を図ってもらわないと人が集まらない可能性がある。その場合は、民生委員がとくに高齢者との関わりがあるため、見つけて相談するとよい。</li> <li>・高齢者クラブという団体もあり、多趣味で元気な人が集まっている。社会福祉協議会にアポをとることと、高齢者と言っても、どういう人達をターゲットにするかで交流の仕方が変わってくる。</li> <li>・e スポーツについて、一度調べてみては。高齢者と若者をつなぐ架け橋となるかもしれない。</li> <li>・高齢者が住みやすい町とは何を指すのかを考えてみては？高齢者だけでなく、いろいろな世代と話すことが大切である。</li> </ul> <p>〈生徒〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちが想定しているよりも、高齢者は元気であることが分かった。折り紙だけでなく、一緒に体を動かすなど、さらに高齢者が元気になる交流の場を考え、実践したい。</li> </ul>
<p>その他 (今後の課題・感想等)</p>	<p><b>【議員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最初のほうは、緊張からか生徒の口が重いように感じた。議員のほうから積極的に話しかけたり、質問を投げかけたりすることにより、和やかな雰囲気で見聞交換会が進んでいった。</li> <li>・今後の実践をぜひ見守りたい。</li> </ul> <p>〈生徒〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議員の皆さんと会話できたのがよかった。</li> <li>・空き家を利用したサロンやカフェを見たことがないので、見学したい。</li> </ul> <p>《今後の課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4 グループが一緒だったので、会話が聞き取りにくかった。次回は、グループごとに別々の教室での開催を希望する。</li> </ul>